

編集後記

今年も、国立公園研究所年報をお届けすることができました。もう第4号を数えることになり、設立からの年月の早さに驚く次第です。

本研究所では、国立公園に関連したフォーラム、講座、映画の上映会、シンポジウム等を通じて、精力的に国立公園や保護地域、動植物保護等の啓発を続けてきました。2018年度にはホスピタリティ・マネジメント学会が本学で開催され、基調講演として株式会社ピッキオ・ディレクターの楠部様にご登壇いただき、国内でのネイチャーツアーの現状や、野生動物保護と観光を両立させるための貴重なお話を伺うことができました。また、「自然環境共生とホスピタリティ・マネジメント」という新しい視点から、パネルディスカッションを行いました。

また、恒例の学園祭時に開催するシンポジウムでは、「ピーターラビットとナショナル・トラストをめぐって」と題し、ピーターラビットのご研究で第一人者である大東文化大学の河野先生より、英国のナショナル・トラスト運動のさきがけとなったビアトリクス・ポターの人生を賭した自然保護活動について、また公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の中安様より、日本におけるナショナル・トラスト活動の様子と、自然景観を守るために必要な寄付金集めの工夫について、ながれやまガーデニングクラブ花恋人(かれんと)の小高様より、流山市民有志による楽しいオープンガーデン活動のご報告をいただき、美しい景観とそこに人の手が入ることによる保全活動の意義等について活発な意見交換を行い、充実した内容となりました。

論説・論文・研究報告は、例年通り研究所の先生方の研究成果として本誌上にて報告いたしましたのでぜひご覧いただきたく思います。

また、今年度からの新しい試みとしましては、自然公園財団発行「国立公園」雑誌の連載記事の転載です。毎号「江戸川大学研究所から」と題しまして、関係者からの記事を投稿しております。その中で本学現代社会学科の卒業生が国立公園を研究し、卒論として発表したものが掲載されています。四年間の集大成としてフィールドでの活動や研究を重ねて提出した卒業論文は、一人は優秀論文に選ばれ、一人は学外での学会で発表する機会を得る等満足な結果となりました。その論文が最終的に雑誌「国立公園」に掲載されたことはさぞ誇らしいだろうと思います。彼らの積み重ねてきた努力が報われたようで、誌面を見たときに私も非常に嬉しくなりました。

末筆ながら、今回も年報編集委員長の油井先生をはじめ、本号の編集・発行に際して多大なる御協力を賜った関係者の皆様に対し、心からの御礼を申し上げます。

江戸川大学学術情報課 紀要事務担当

高橋 恵美